

白桃のいくらでもある桃畑 わが好きのヘビーシロップ桃缶の
もものみのうすももいろにふくらんで 白桃に一生の傷ありにけり
桃色は桃の実のいろ甘さうな 桃の傷大きく切つて捨てにけり
白桃のつんとしてゐる花の跡 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
白桃をひたと包んで桃の皮 桃の実の中に苦惱の種がある
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ 桃の実にはしたなき種ありにけり
お供への桃を生者が分つなり 鬼女の如く髪振り乱す桃の種
桃の皮むけば水着のごと縮む 白桃や黄泉路の旅の安かれと
桃啜る雨の予報の当りし夜 泣きながら三途の川に桃を積む
桃すする幼なのほつぺ落ちさうな 桃の香の残る机に稿を継ぐ

白桃のいくらでもある桃畑 わが好きのヘビーシロップ桃缶の
桃色は桃の実のいろ甘さうな 白桃に一生の傷ありにけり
もものみのうすももいろにおもたけれ 桃の傷大きく切つて捨てにけり
白桃のつんとしてゐる花の跡 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ 桃の実の中に苦惱の種がある
お供への桃を生者が分つなり 白桃にはしたなき種ありにけり
白桃をひたと包みし皮を引く 鬼女の如く髪振り乱す桃の種
桃の皮むけば水着のごと縮む 白桃や黄泉路の旅の安かれと
桃啜る雨の予報の当りし夜 泣きながら三途の川に桃を積む
桃すする幼なのほつぺ落ちさうな 桃の香の残る机に稿を継ぐ

白桃や重たき月が東山桃啜る雨の予報の当りし夜
白桃のいくらでもある桃畑桃すする幼なのほつぺ落ちさうな
桃色は桃の実のいろ甘さうなわが好きのヘビーシロップ桃缶の
もものみのうすももいろにおもたけれ枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
白桃のつんと尖りし花の跡白桃の哀れ打身のひとところ
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ桃の傷大きく切つて捨てにけり
さつきまで月に供へてありし桃白桃や黄泉路の旅の安かれと
お供への桃を生者が分つなり泣きながら三途の川に桃を積む
白桃をひたと包みし皮を剥ぐ桃の香の残る机に稿を継ぐ
白桃の皮をむきたる丸裸あくびして大きな桃を産みにけり

白桃や重たき月の東山桃啜る雨の予報の当りし夜
白桃のいくらでもある桃畑桃すする幼なのほつぺ落ちさうな
桃色は桃の実のいろ甘さうなわが好きのヘビーシロップ桃缶の
もものみのうすももいろにおもたけれ枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
桃太郎のつんと尖りし桃の紋白桃の哀れ打身のひとところ
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ桃の傷大きく切つて捨てにけり
さつきまで月に供へてありし桃白桃や黄泉路の旅の安かれと
お供への桃を生者が分つなり泣きながら三途の川に桃を積む
桃を剥く肉と皮との間かな桃の香の残る机に稿を継ぐ
白桃の皮をむきたる丸裸あくびして大きな桃を産みにけり

桃太郎のつんと尖りし桃の紋 白桃は濡れて重たき月のごと
白桃のいくらでもある桃畑 桃啜る雨の予報の当りし夜
桃色は桃の実のいろ甘さうな 桃すする幼なのほつペ落ちさうな
もものみのうすももいろにおもたけれ わが好きのヘビーシロップ桃缶の
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
さつきまで月に供へてありし桃 桃の傷大きく切つて捨てにけり
お供への桃を生者が分つなり 白桃や黄泉路の旅の安かれと
白桃や哀れ打身を免れず 泣きながら三途の川に桃を積む
桃を剥く肉と皮との間かな 桃の香の残る机に稿を継ぐ
白桃は皮をむかれて丸裸 あくびして大きな桃を産みにけり

桃太郎のつんと尖りし桃の紋 白桃は濡れて重たき月のごと
白桃のいくらでもある桃畑 桃啜る雨の予報の当りし夜
桃色は桃の実のいろ甘さうな 桃すする幼なのほつペ落ちさうな
もものみのうすもいろいろの香なりけり わが好きのヘビーシロップ桃缶の
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
さつきまで月に供へてありし桃 桃の傷大きく切つて捨てにけり
お供への桃を生者が分つなり 白桃や黄泉路の旅の安かれと
白桃や哀れ打身を免れず 泣きながら賽の河原に桃を積む
桃を剥く肉と皮との間かな 桃の香の残る机に稿を継ぐ
白桃は皮をむかれて丸裸 あくびして大きな桃を産みにけり

桃太郎のつんと尖りし桃の紋 土色は白桃の非の打ちどころ
白桃のいくらでもある桃畑 桃の傷の無惨を切つて捨てにけり
桃色は桃の実のいろ甘さうな 予報通り夜の雨ふる桃啜る
もものみのうすもいろいろの香なりけり 桃する幼なのほつぺ落ちさうな
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ わが好きのヘビーシロップ桃缶の
さつきまで月に供へてありし桃 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
お供への桃を生者が分つなり 白桃や黄泉路の旅の安かれと
桃を剥く果肉と皮の間かな 泣きながら賽の河原に桃を積む
白桃は皮をむかれて丸裸 桃の香の残る机に稿を継ぐ
白桃は濡れて重たい月みたい 大あくび大きな桃を吐くやうに

桃太郎のつんと尖りし桃の紋 土色は白桃の非の打ちどころ
白桃のいくらでもある桃畑 桃の傷の無惨を切つて捨てにけり
桃色は桃の実のいろ甘さうな 予報通り夜の雨ふる桃啜る
桃の実のうす桃いろの香なりけり 桃する幼なのほつぺ落ちさうな
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ わが好きのヘビーシロップ桃缶の
さつきまで月に供へてありし桃 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
白桃は月より重く盆の上 白桃や黄泉路の旅の安かれと
お供への桃を生者が分つなり 泣きながら賽の河原に桃を積む
白桃をひたと包みし皮をむく 桃の香の残る机に稿を継ぐ
桃を剥く果肉と皮の間かな 大あくび大きな桃を吐くやうに

桃太郎のつんと尖りし桃の紋 白桃をひたと包みし皮をむく
白桃のいくらでもある桃畑 桃を剥く皮と果肉の間かな
白桃や梨や柿とはまた別の 土色は白桃の非の打ちどころ
桃色は桃の実のいろ甘さうな 桃すする桃より柔らかな頬つぺ
桃の実のうす桃いろの香なりけり わが好きのヘビーシロップ桃缶の
仏壇に白桃匂ふ夜も匂ふ 枇杷の種真つ黒桃の種真つ赤
満月が桃の宴の上になかな 白桃や黄泉路の旅の安かれと
さつきまで月に供へてありし桃 泣きながら賽の河原に桃を積む
白桃は月の如くに盆の上 桃の香の残る机に稿を継ぐ
お供への桃を生者が分つなり 大あくび大きな桃を吐くやうに